

☆視 点

インドネシアの化繊産業の業況

インドネシア合繊協会によると、インドネシアの化繊産業の近年の業況は以下の通りである。ポリエステルで新增設が計画されており、輸入代替が期待されている一方、供給過剰も懸念されている。

1. 化合繊の需給構造

(1) 供給構造

インドネシアは 18 社の化繊メーカーが存在し、その設備能力は合計年産約 190 万トンのである。規模的にはポリエステル F が大きく年産 83 万トンので、メーカー数も 14 社と多い。これにポリエステル S (同 60 万トン)、レーヨン S (50 万トン) が続く。レーヨン S は SPV と Indo-Bharat の 2 社体制である。

2013 年の化繊生産は約 160 万トンので、平均稼働率は 83%。うちポリエステル S の稼働率は 97%、レーヨン S は 95% と、短繊維関係が高稼働であった。

図表 品種別の生産能力等

	PSF	PFY	NFY	VSF (Viscose)
Installed Capacity - KTA	602	833	32	500
No of Producers	8	14	4	2
Average Size - KTA	75	60	8	275
Capacity Range - KTA	25-161	6-145	4-14	250-300
OR%	97%	75%	62%	95%

(2) 短繊維需給構造

天然繊維を含む短繊維全体の需給をみると、国内生産は 107 万トンの、輸出は 29 万トンので輸出比率は 27% である。輸入は 101 万トンの、国内ミル消費は 179 万トンので、輸入比率は 56% である。輸出ではレーヨン S の輸出が大きく、輸入では国内生産の少ない綿花が大きい。

国内ミル消費の内訳をみると、ポリエステルが 66 万ト、綿が 65 万トと拮抗しており、両品種で全体の 73%を占めている。用途別にみると、紡績糸向けが 168 万トで全体の 94%を占め、残りが不織布向けとなっている。

図表 短繊維の需給構造

Fiber	Production	Cotton	6
		Oth. Natural Fiber	3
		Polyester	583
		Oth. Synthetic Fiber	0
		Rayon/Viscose	476
		Total	1068
	Export	Cotton	42
		Oth. Natural Fiber	4
		Polyester	57
		Oth. Synthetic Fiber	12
		Rayon/Viscose	176
		Total	291
	Import	Cotton	687
		Oth. Natural Fiber	7
		Polyester	136
		Oth. Synthetic Fiber	112
		Rayon/Viscose	71
		Total	1013
	Dom. Consumption	Cotton	651
		Oth. Natural Fiber	6
		Polyester	662
Oth. Synthetic Fiber		100	
Rayon/Viscose		371	
Total		1790	
Dom. Consumption	Spun & OE Yarn	1682	
	Non-Woven (Other)	108	
	Total	1790	

Source: BPS & BII processed by www.indotextiles.com

(3) 糸需給構造

紡績糸およびフィラメントからなる糸全体の需給をみると、国内生産は 232 万ト、輸出は 88 万トで輸出比率は 38%である。国内ミル消費は 166 万トで、うち輸入は 21 万ト。輸入比率は 13%と国内調達率が高い。

輸出では紡績糸が多く、輸入ではフィラメントが多いのが特徴である。国内需要の 65%が紡績糸で短繊維を主体とした構造であることがわかる。

図表 糸の需給構造

Yarn	Production	Spun & OE	1682
		Filament	639
		Total	2321
	Export	Spun & OE	688
		Filament	187
		Total	875
	Import	Spun & OE	82
		Filament	129
		Total	211
	Dom. Consumption	Spun & OE	1076
		Filament	581
		Total	1657
	Dom. Consumption	Weaving	1657
		Knitting	
		Total	1657

Source : BPS & BII processed by www.indotextiles.com

2. 品種別動向

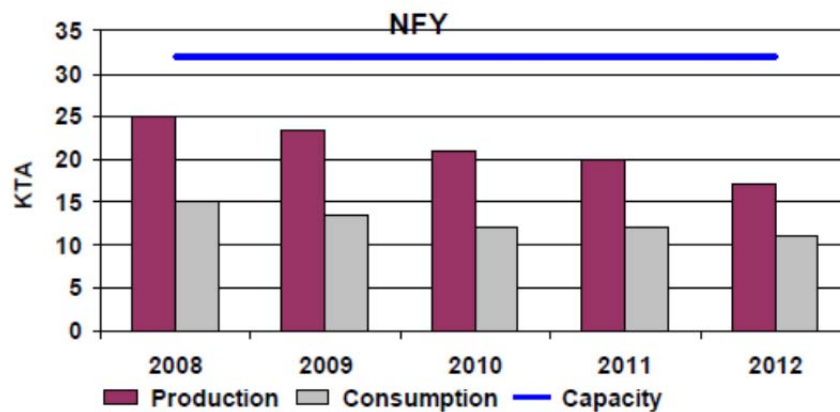
(1) ナイロンF (衣料用)

ナイロンFの国内需要はこの5年間縮小を続けており、それにあわせ生産も減少傾向が続いている。

輸出は2万ト、輸入は特殊品を中心に2,000トである。国内需要の減少から輸入は減少する見通しである。

稼働率は63%で更なる低下が見込まれている。しかしながら、国内需要を上回る生産水準が続き、その差分として輸出が続く見込みである。

図表 ナイロンFの生産・消費動向



(2) ポリエステルF

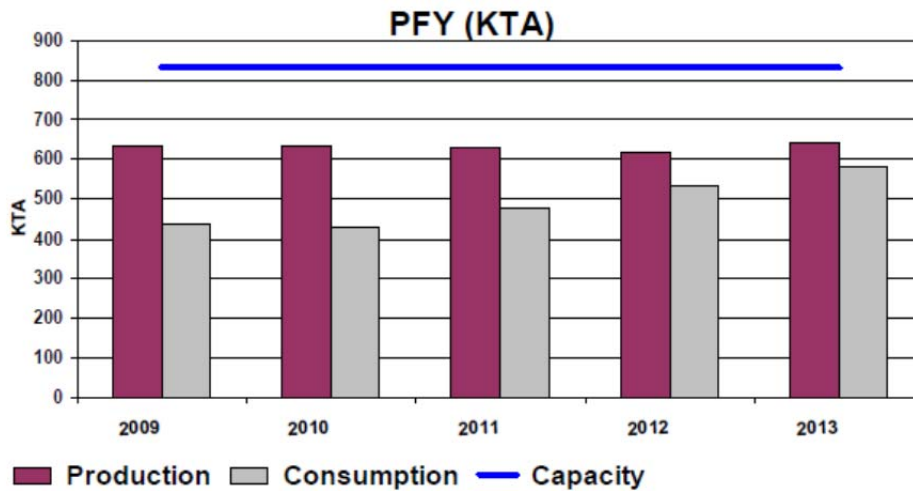
ポリエステルFの国内需要は堅調に伸びており、2013年は前年比9%増と好調であった。2014年も8%を超える増加が予想されている。

国内需要はこの5年間で年率7%の成長を遂げている。これは主に、ニット、細幅織物、衣料向けの需要増による。今後も需要増は続く見通しである。

国内需要の50～55%は織物向けである。ニット向けがキャッチアップしつつあり、現在45～50%のシェアに拡大している。

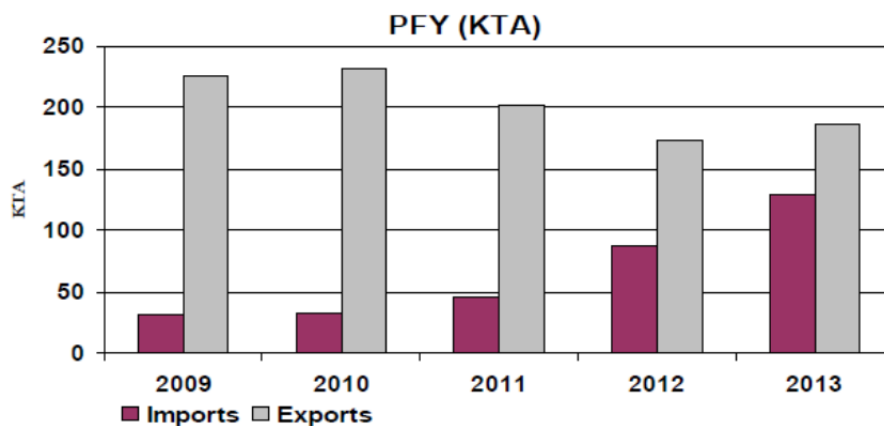
一方、生産設備および生産はこの10年以上横ばいを続けてきた。国内需要が拡大していることから、2015年初頭をめどに増設が計画されている。

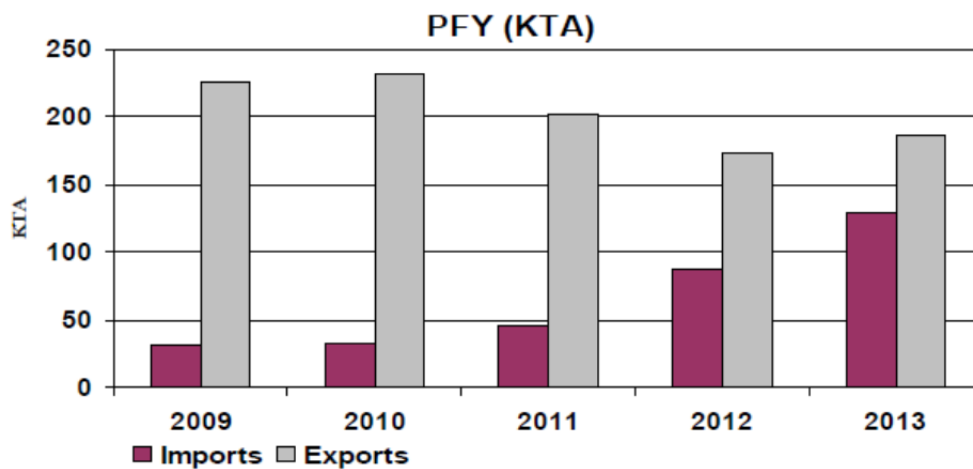
図表 ポリエステルFの生産・消費動向



輸出入動向をみると、輸出が減少傾向にある一方、拡大する国内需要を背景に輸入が急速に増加している。

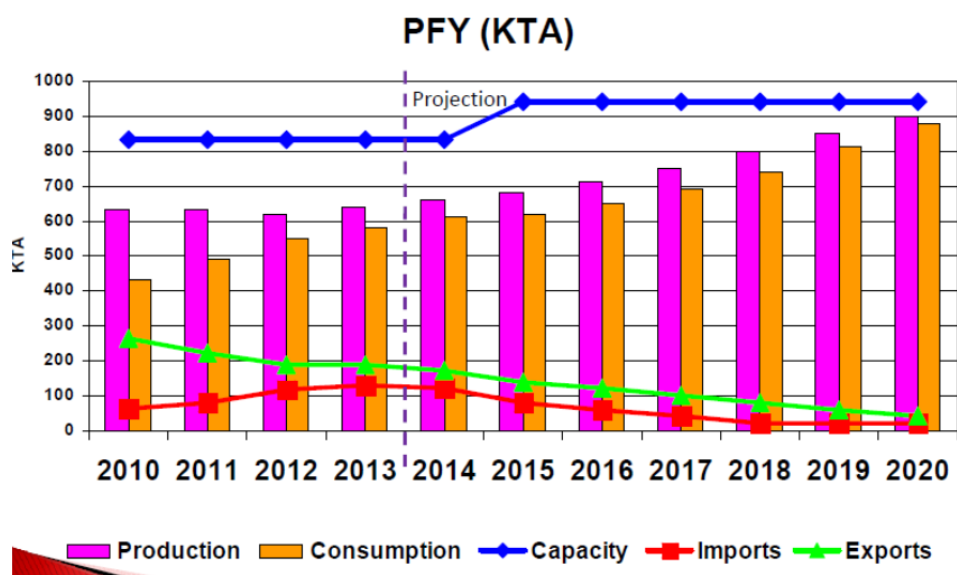
図表 ポリエステルFの輸出入動向





今後の見通しとしては、Indorama Polychem の増設により、生産能力は 2015 年に年産 94 万トに拡大する。一方、国内需要は年間 2～5 万トの割合で増加すると見られている。この結果、稼働率は 2017 年まで依然 80%を下回る見通しだが、輸入の減少や輸出の増加が努力されれば、稼働率はより高くなる可能性もある。

図表 ポリエステルFの需給見通し



(3) ポリエステル S

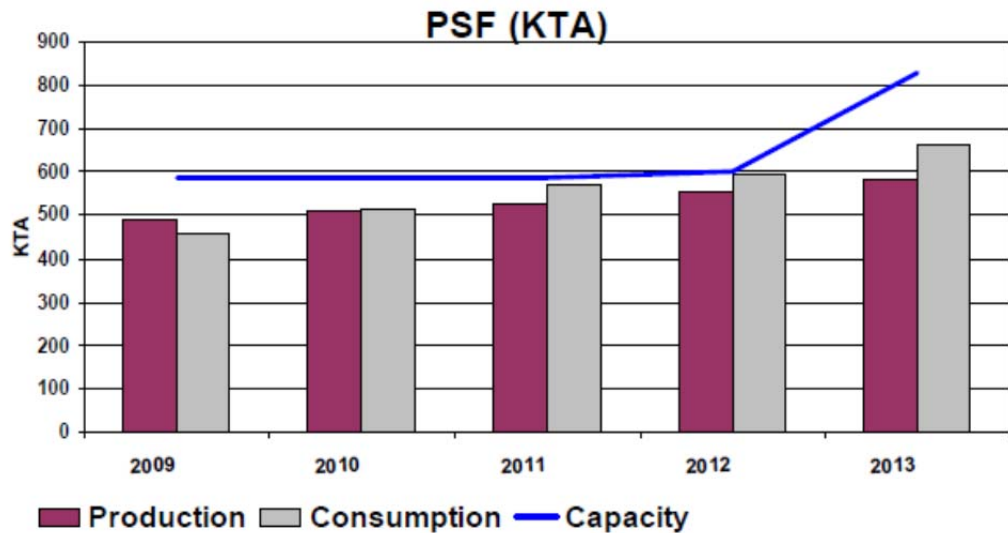
ポリエステル S の国内需要は 2002 年～2007 年の 5 年間は約 45～46 万トンを横ばいを続けたが、2008 年～2013 年は年率 8% の成長を遂げた。

2013 年のポリエステル S の国内需要は前年比 11% 増となり、今後も年率 8% 超の成長が予想されている。

国内需要の 9 割が紡績向けである。インドネシアの紡績能力は約 1,000 万鍾である。

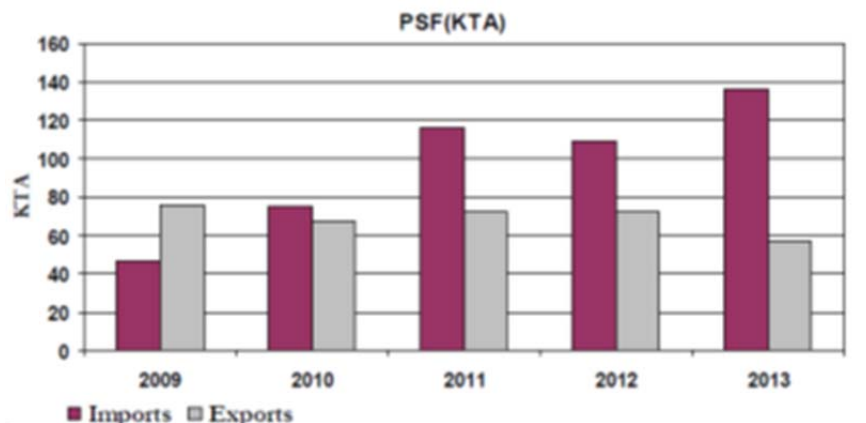
供給サイドを見ると、主に Indorama による年産 23 万トンの増設が計画されており、これが完成するとインドネシアは自給体制となる。

図表 ポリエステル S の生産・消費動向



輸出入動向をみると、国内需要の増加にあわせ、輸入が増加しているのが特徴である。2014 年の輸入は、大型増設により自給体制が整うため、大幅に減少する見込みである。

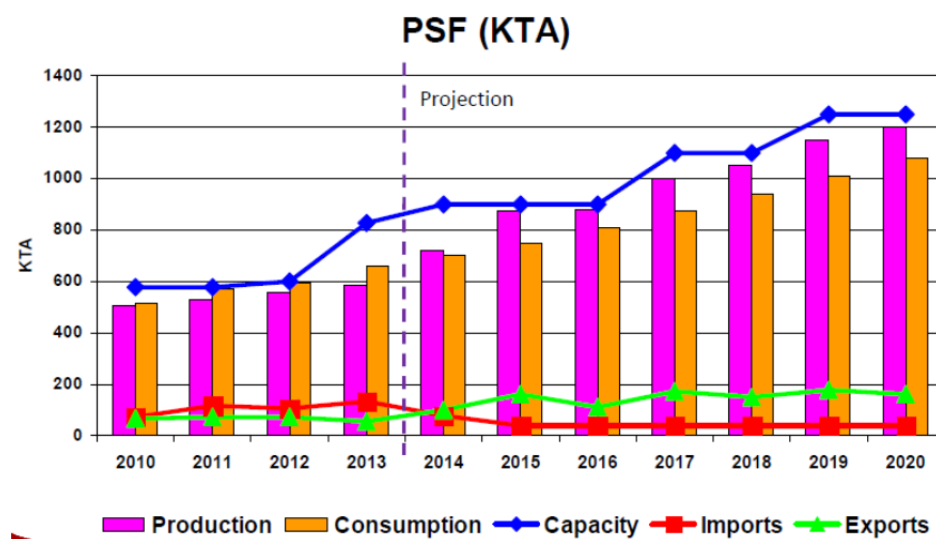
図表 ポリエステル S の輸出入動向



今後の見通しとしては、国内需要の輸入依存が高まるなか、自給体制を目指し、新增設が計画されている。この結果生産能力は2019年に年産125万トに拡大する見通しである。Tifico、Indorama、Asia Pacific Fiberがデボトルを計画。Indorama Polychem、Mutu Gading、Sritexが2013年から2019年にかけて新規投資を計画している。

一方、国内需要は年間5~7万ト程度の増加にとどまる見込みである。この結果、輸出が増加しない限りは、稼働率は80%を下回り、新增設後の供給過剰懸念も示されている。

図表 ポリエステルSの需給見通し



(4) アクリルS

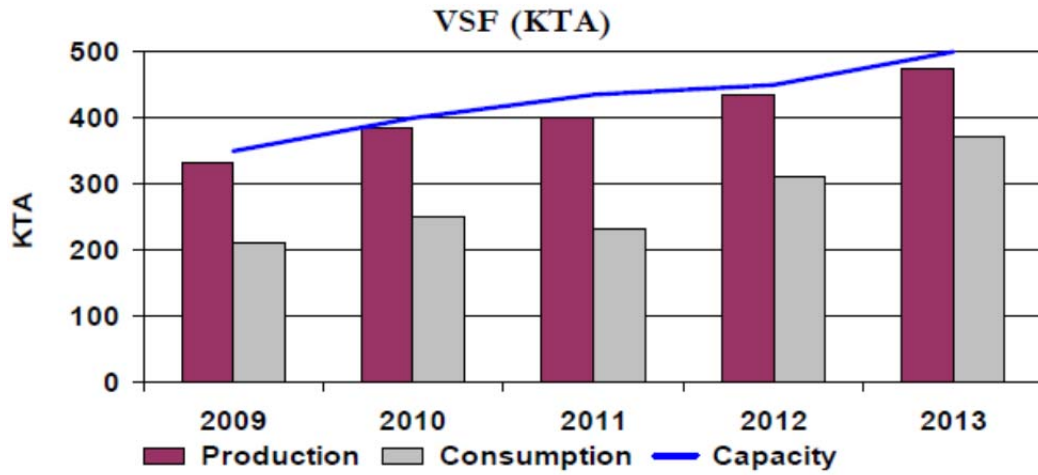
国内生産はなく、約6.5万トの国内需要は、すべて輸入に依存している。国内需要は横ばい傾向が続いている。

(5) レーヨンS

レーヨンメーカーは増設を続けており、2013年は生産能力は年産50万ト規模に拡大した。

国内需要は2008年から増加傾向を続け、今後も年率8%の増加が予想されている。需要の増加は国内紡績錠数の増加によるものである。

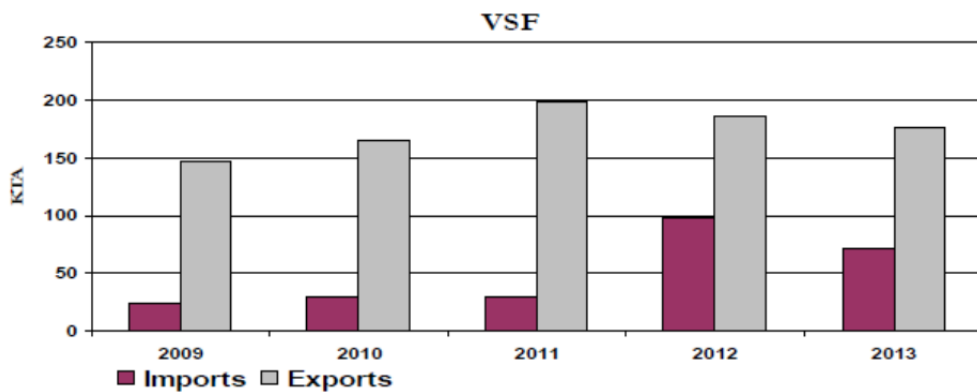
図表 レーヨンSの生産・消費動向



輸出入動向をみると、輸出は2008年～2011年は増加を続けたが、2012年、13年は減少となった。

輸入は2011年まで横ばいで、かつ国内需要に比して小規模なものであった。2012年は国内需要の増加にあわせて急増したが、2013年は減少した。

図表 レーヨンSの輸出入動向



(業務調査グループ 杉原)

(以上)